

すくすく園では、お子様が病気の回復期にお預かりしています。普段は元気いっぱいの子ども達も疲労で体調を崩すこともあります。ご家庭でもかかりやすい病気についての症状と正しい対応を知っていればあわてずに済みます。鳥取県中部感染症流行情報を参考にいただき、手洗い、消毒、うがい、マスク着用を徹底しながら病気に負けないように体調管理を心がけていきましょう。

## 鳥取県中部感染症流行情報

疾病名	第1週	第2週	第3週	第4週
インフルエンザ	★	★	◎	○
感染性胃腸炎	△	○	◎	○
水痘（水ぼうそう）	×	○	×	×
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	×	×	×	×
手足口病	×	×	△	×
ヘルパンギーナ	×	×	×	×
咽頭結膜熱	○	△	△	◎
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	★	★	★	★
流行性角結膜炎	×	×	×	△
マイコプラズマ肺炎	×	×	×	×
伝染性紅斑	×	×	×	×
RSウイルス感染症	×	×	×	×

★警報発令中

◎流行している

△散発

○やや流行している

×患者発生極少又はなし

## 今月の気になる病気

## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）

## ◆溶連菌とは？

A群β溶連菌（溶血性連鎖球菌）という細菌になります。抗生物質が無い昔は伝染病として恐れられましたが、現在では治療法が確立されています。溶連菌の潜伏期間は約2～5日と言われています。最初に現れる症状は、人によって異なりますが、のどへの感染に引き続き、発熱のほか、手足に小さな赤い発疹が出たり、舌の表面に赤いブツブツができたりします。風邪の症状のように咳や鼻水がないのが特徴です。

●のどの痛み、発熱がある場合は医療機関を受診しましょう。

●比較的6～15歳の学童に多く見られますが、成人でも感染します。

家族の間での感染率は20～60%もあるとされているので、子どもが溶連菌だと診断されたら、マスクをして飛沫を防ぐとともに、手洗い・うがいを徹底しましょう。

●症状が治まっても、お薬（抗生物質）は最後まで飲み切りましょう。

薬をきちんと服用すれば、24時間以内に感染力がほとんどなくなりますが、良くなったからといって薬の服用をやめてしまうと再発し、急性腎炎・リウマチ熱・血管性紫斑病・中耳炎・気管支炎などの合併症を引き起こすこともあります。

・しっかり手洗い、消毒し感染をストップさせましょう。

・マスクでしっかり予防しましょう。

